

## 小委員会の調査報告書

教科名	美術科	委員長名 武田 千恵美
調査研究の経過	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月2日(木)に、稚内市役所正庁で開催し、美術科小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月3日(金)から7月14日(火)まで、「教科書見本本」、「教科書編集趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月15日(水)に、稚内総合文化センター小ホールで開催し、報告書の作成を行った。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、開隆堂、光村図書、日本文教出版の3者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱内容」について</p> <p>(2) 「内容の構成・配列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮等」について</p>	
調査研究に当たった際の配慮事項	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱内容」について</p> <p>(1) 中学校学習指導要領の総則及び美術科の目標、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い及び学習指導要領解説美術編の総説 美術科改定の趣旨 美術科改訂の要点に基づいて、学習内容が取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、どのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・配列・分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・配列が、地域の実態や学年の発達の段階に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、各領域や分野等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮」について</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫がされているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>4 「その他」について</p> <p>上記1～3に含まれないもので、全体を通じて特色があれば記載する。</p>	
少数意見その他		

様式 2

教科名	美術科		
	発行者名	教科書名	番号
	9 開隆堂	美術1 美術2・3	美術 726 美術 826
取 り 扱 い 内 容	○ 絵や彫刻などについては、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 観察して表す活動、情景を描く活動、しぐさや動きを捉えて表す活動、材料の特性を生かして表す活動、技法を生かして描く活動、版の特性を生かして表す活動を通して、対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、創造的に表現の構想を練り、創意工夫して表現する。		
	第2・3学年～ 情景を描く活動、自分を見つめて表す活動、空想の世界を表す活動、版の特性を生かして表す活動、感情を形や色で表す活動、絵巻物の技法を生かして表す活動、墨の効果を生かして表す活動、動きや空間を表す活動、材料の特性を生かして表す活動を通して、対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、表したい主題がよりよく表現できるように表現の構想を練り、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現する。		
	○ デザインや工芸などについては、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 構成や装飾をデザインする活動、木や粘土などの材料の特性を生かしてつくる活動、気持ちを伝えるものをつくる活動を通して、目的や機能を考え、美的感覚を働かせて構成を考えたり、他者の立場に立って伝えたい内容を考えたり、使用する者の気持ちや材料などの美しさなどを考えて表現の構想を練り、材料や用具の特性などを考えて表現する。 第2・3学年～ 伝統工芸のよさを生かしてつくる活動、心（使う人の気持ち、機能、マーク、ピクトグラム:図、構成、装飾）・コミュニケーション（形や色彩、ロゴタイプやマーク、ポスター、絵本、いろいろな表現技法）・つながり（使う人への思い、パッケージデザイン、ユニバーサルデザイン）・環境をデザインする活動、空間を演出する活動、あかりの効果を生かしてつくる活動、木の特性を生かしてつくる活動を通して、目的や機能を考え美的感覚を働かせて形や色彩などの組合せを簡潔にしたり統合化したり、伝えたい内容を伝えるために形や色彩などの効果を生かしたり、使用する者の気持ちや造形的な美しさなどを総合的に考えたりして表現の構想を練り、材料や用具、表現方法の特性などを考えて表現する。		
	○ 鑑賞については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 広重とブリュゲルの作品の造形的な特徴を比べる活動、若冲の屏風画の手法の効果を話し合う活動、作品を紹介し合う鑑賞活動を通して、作品などに対する見方や考え方を広げ、美術文化に対する関心を高め、造形的なよさや美しさなどを感じ取る。 第2・3学年～ 「最後の晚餐」「モナ・リザ」等のルネサンス美術のよさを感じ取る活動、長谷川久蔵の屏風画の手法の効果を話し取る活動、ジャポニズムについて話し合う活動、仏像の表情や動きの違いを味わう活動、ピカソの「ゲルニカ」制作の意図について話し合う活動を通して、造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、生活を豊かにする美術の働きについて理解し、美術文化の継承と創造への関心を高める。		
○ [共通事項] については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 観察して表す活動、技法を生かして描く活動、材料や版の特性を生かして表す活動、デザインする活動、生活を潤すものをつくる活動、造形的な特徴を話し合う・違いを比較し合う・知識・理解を深める・技法の効果を話し合う・紹介し合う鑑賞活動を取り上げ、形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえ、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。 第2・3学年～ 空想の世界や自分を見つめて表す活動、空間や材料の特性を生かして表す活動、デザインする活動、生活を潤すものをつくる活動、印象や感じ取ったことを話し合う・造形的な特徴を話し合う・違いを比較し合う・知識・理解を深める・表現との関連を重視した鑑賞活動を取り上げ、形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえ、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。			
○ 知識・技能の習得、活用、探求への対応については、どのように取り扱われているか。 第1学年～ 巻頭に、自分の感性を働かせ、自分にふさわしい表し方を追求するための方法をまとめ			

	<p>た「集める・試す・組み立てる」が、巻末に、交流の仕方をまとめた「美しさの交流」、光や色彩などの基本的な知識をまとめた「色彩ホームページ」、用具や道具の使い方をまとめた「パレットコーナー」「道具箱」が設けられ、それぞれの題材ページの下に参考として示され、基礎・基本の習得と創造的な技能が発揮されるための配慮がされている。</p> <p>第2・3学年～ 巻末に、光や色彩などの基本的な知識をまとめた「色彩ホームページ」が設けられ、それぞれの題材ページの下に参考として示され、基礎・基本の習得と創造的な技能が発揮されるための配慮がされている。また、「生きることと美術」として、命・世代の継承・責任、社会の課題、共生していくこと、美術を通して私たちが学ぶこと、人の表現から見る美術の歴史が取り上げられている。</p> <p>・各冊とも、基礎的な技法や知識が随所に囲みで示されている。</p>
<p>内容の構成・配列・分量等</p>	<p>○ 内容の構成・配列が、地域の実態や学年の発達の段階に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>第1学年～ 図画工作での学習との関連を重視した題材が設定され、小学校からの連携がスムーズにできるよう配慮されている。さらに、生徒の実態や地域、各学校の特性を生かした指導計画の構成がしやすいような題材が随時、設定されている。</p> <p>第2・3学年～ 第2・3学年が1冊にまとめられ、豊富な資料とともに効率よく学習が進められるように配慮されている。また、表現と鑑賞、基礎と発展が相互に関連して配列され、無理なく学習が進められるように構成されている。さらに、高等学校で本格的に扱う映像表現の基礎的な内容を扱うなど、高等学校「美術」「工芸」への発展に配慮されている。</p> <p>・関連する学習題材をまとめて、4ページや6～8ページで展開する大型の題材として、多様な授業実践の展開に対応できるよう編集されている。</p> <p>○ 内容の分量が、各領域や分野等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>第1学年～ 「絵や彫刻など」は20ページ、「デザインや工芸など」は16ページ、「鑑賞」は6ページ、資料が16ページであり、総ページ数は58ページで前回より16%増となっている。</p> <p>第2・3学年～ 「絵や彫刻など」は36ページ、「デザインや工芸など」は36ページ、「鑑賞」は25ページ、資料が11ページであり、総ページ数は108ページで、前回より15%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 生徒の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に、「美術って、何だろう」として、美術の学習の目標や学びの意味を考えること（第1学年）、「他人と違うこと、他人と同じであること」として、自己理解や自分と他者との関わりを考えること、「美術はいつも生活や暮らしの中に」として、美術で学んだ力を生活の中で生かすこと（第2・3学年）の大切さに気付く内容が取り上げられている。</li> <li>・コミュニケーションを意識した題材が多く設定され、自他の理解を深めて、それぞれの立場を尊重する心や養われるよう配慮されている。</li> <li>・北海道の素材等として、片岡球子の油絵「富士山」、安田侃の彫刻「妙夢」（JR 札幌駅）、モエレ沼公園にあるイサム・ノグチの彫刻「テトラマウンド」、アイヌ民族の伝統文様「ルウンベ」（第2・3学年）を紹介している。</li> <li>・鑑賞のきっかけとなる「問いかけ」を示し、鑑賞学習への興味・関心を高めるよう工夫されている。</li> <li>・作品を原寸大で掲載した「原寸ギャラリー」を設定し、テーマにふさわしい美術作品を取り上げ、生徒が共感を抱くことができるようにしている。</li> </ul> <p>○ 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な生徒作品が大きく掲載され、第1学年では生徒作品数は101点、発想や構想を促すヒントなどの数や見通しをもって活動できるような工夫の箇所数は118箇所、第2・3学年では生徒作品数は159点、発想や構想を促すヒントなどの数や見通しをもって活動できるような工夫の箇所数は220箇所となっており、主体的な学習を促すよう工夫されている。</li> <li>・各題材で大切にしたい学習活動や、その題材を通して生徒に育てたい力を解説文でわかりやすく示し、各題材の末尾に自己評価の観点を「ふりかえり（4観点）」として簡潔な文章で示されている。</li> <li>・題材に関連する基礎的な技法や知識や情報をマークと囲みで示し、発想や構想の手がかりとなるようにしている。</li> <li>・相互に関連するページをマークで示すことで、興味に応じて自主的に学習を進めることができるよう配慮されている。</li> </ul> <p>○ 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各冊は「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「ガイダンスや資料的な内容」ごとに色で示している。</li> <li>・安全や注意に関する内容をマークと囲みで示している。</li> <li>・NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構による校閲を受け、2012年度より開始されたCUDマークの取得が見込まれている。</li> </ul>

教科名	美術科		
	発行者名	教科書名	番号
	38 光村	美術1 美術2・3	美術 727 美術 827
取り扱っている内容	<p>○ 絵や彫刻などについては、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～ 観察して表す活動、情景を描く活動、しぐさを捉えて表す活動、版の特性を生かして表す活動、材料の特性を生かして表す活動を通して、対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、創造的に表現の構想を練り、創意工夫して表現する。</p> <p>第2・3学年～ 空想の世界を表す活動、錯覚を生かして表す活動、視点を変えて描く活動、情景を描く活動、墨の効果を生かして描く活動、版の特性を生かして表す活動、自分を見つめて表す活動、動きや空間を表す活動、材料の特性を生かして表す活動、感情を形や色で表す活動、環境と調和する彫刻をつくる活動、連続した動きをつくり出す活動、光と影の特性を生かして表す活動、ともにつくる活動を通して、対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、表したい主題がよりよく表現できるように表現の構想を練り、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現する。</p> <p>○ デザインや工芸などについては、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～ 構成・情報（絵文字）・気持ちをデザインする活動、木や粘土などの特性を生かしてつくる活動を通して、目的や機能を考え、美的感覚を働かせて構成を考えたり、他者の立場に立って伝えたい内容を考えたり、使用する者の気持ちや材料などの美しさなどを考えて表現の構想を練り、材料や用具の特性などを考えて表現する。</p> <p>第2・3学年～ メッセージ・情報（図記号、マーク、絵グラフ）・使いやすさ:ユニバーサルデザイン・キャラクター・パッケージ・環境・夢をデザインする活動、あかりの効果を生かしてつくる活動、伝統工芸のよさを生かしてつくる活動、手作りのものをつくる活動を通して、目的や機能を考え美的感覚を働かせて形や色彩などの組合せを簡潔にしたり統合化したり、伝えたい内容を伝えるために形や色彩などの効果を生かしたり、使用する者の気持ちや造形的な美しさなどを総合的に考えたりして表現の構想を練り、材料や用具、表現方法の特性などを考えて表現する。</p> <p>○ 鑑賞については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～ 日本人が大切にしてきた自然や季節の美しさを感じ取る活動、古代人の生み出した火焰型土器の造形のおもしろさを味わう活動、アジアの仮面や衣装の造形的な特徴を比べる活動を通して、作品などに対する見方や考え方を広げ、美術文化に対する関心を高め、造形的なよさや美しさなどを感じ取る。</p> <p>第2・3学年～ ゴッホの「自画像」の筆遣いや並置混色・補色の対比効果を感じ取る活動、ピカソの「ゲルニカ」制作の意図について話し合う活動、若冲の屏風画の手法の効果を話し合う活動、アイヌ民族と琉球王国が育んだ衣装を比較する鑑賞活動、螺鈿による装飾の工夫や美しさを感じ取る鑑賞活動を通して、造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、生活を豊かにする美術の働きについて理解し、美術文化の継承と創造への関心を高める。</p> <p>○ [共通事項]については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～ 観察して表す活動、材料や版の特性を生かして表す活動、デザインする活動、生活を潤すものをつくる活動、印象を話し合う・造形的な特徴を話し合う・違いを比較し合う・知識・理解を深める鑑賞活動を取り上げ、形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえ、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。</p> <p>第2・3学年～ 空想の世界や自分を見つめて表す活動、空間や材料の特性を生かして表す活動、デザインする活動、生活を潤すものをつくる活動、印象や感じ取ったことを話し合う・造形的な特徴を話し合う・違いを比較し合う・知識・理解を深める・表現との関連を重視した鑑賞活動を取り上げ、形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえ、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。</p> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探求への対応については、どのように取り扱われているか。</p>		

	<p>第1学年～ 巻末に、「学習を支える資料」として、発想のためのスケッチブック、画材や技法、文字のデザイン、粘土・木の特徴と扱い方、色と光の特徴、形と材料の特徴、美術館の役割が取り上げられ、それぞれの題材ページの下に参考として示され、基礎・基本の習得と創造的な技能が発揮されるための配慮がされている。</p> <p>第2・3学年～ 巻末に、「学習を支える資料」として、発想のためのスケッチブック、映像メディアの活用、金属や石の特徴と扱い方、色と光の特徴、形と材料の特徴、トピックス美術史、美術史年表、絵巻物を楽しむが取り上げられ、それぞれの題材ページの下に参考として示され、基礎・基本の習得と創造的な技能が発揮されるための配慮がされている。</p>
内容の構成・配列・分量等	<p>○ 内容の構成・配列が、地域の実態や学年の発達の段階に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>第1学年～ 図画工作とのつながりを意識し、基礎となる資質や能力の定着が図れるような題材が設定されている。</p> <p>第2・3学年～ 第2・3学年が1冊にまとめられ、豊富な題材を各校の実情に合わせて選択できるように配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各冊は、学習を通して身に付けたい力や授業の流れをイメージしやすいように工夫されている。</li> <li>・各冊は、「表現中心の題材」と「鑑賞中心の題材」に分け、バランスや配列を考えるとともに、相補に関連を図れるようになっている。</li> <li>・「表現中心の題材」の一部に、4ページ構成の題材を設け、表現の可能性が広がるようにしている。</li> </ul> <p>○ 内容の分量が、各領域や分野等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>第1学年～ 「絵や彫刻など」は14ページ、「デザインや工芸など」は12ページ、「鑑賞」は20ページ、資料が22ページであり、総ページ数は68ページで前回より21%増となっている。</p> <p>第2・3学年～ 「絵や彫刻など」は32ページ、「デザインや工芸など」は24ページ、「鑑賞」は25ページ、資料が25ページであり、総ページ数は106ページで、前回より6%増となっている。</p>
使用上の配慮等	<p>○ 生徒の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に、「感じたことを話し合おう」として、作品を見ることを楽しみ、感じ取ったことを自由に話し合うこと（第1学年）、美術文化や歴史への興味・関心を高めること（第2・3学年）を取り上げ、親しみやすい美術作品と詩を取り上げるとともに、「美術って何だろう!」として、図画工作科と美術科、生活と文化のつながり（第1学年）に、「朝起きてから夜寝るまでの美術」として、美術と暮らしや社会とのつながり（第2・3学年）に気付く内容が取り上げられている。</li> <li>・北海道の素材等として、アイヌ民族の衣装の文様（第1学年）、葛西薫のポスター「ヒロシマ・アピールズ」、その「キョウちゃん」、安田侃の彫刻「妙夢」（JR 札幌駅）、藤本壮介ら4人が設計した「みんなの家」、磯田憲一の「君の椅子」プロジェクト、モエレ沼公園にあるイサム・ノグチの彫刻「テトラマウンド」や遊具、ユミール・ガレの「鯉魚文（りぎょもん）花瓶」、アイヌ民族の伝統文様「モレウ」・アットゥシ織の着物「アットゥシアミブ」・薄手の着物「カバリミブ」、大通公園のライトアップ（第2・3学年）を紹介している。</li> <li>・両観音ページを生かした「特別展示室」と作品を原寸大で掲載した「原寸大で鑑賞しよう」を設定し、テーマにふさわしい美術作品や詩を取り上げたり、「作者の言葉」を随所で紹介したりして、生徒が共感を抱くことができるようにしている。</li> </ul> <p>○ 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年では生徒作品数は92点、発想や構想を促すヒントなどの数や見通しをもって活動できるような工夫の箇所数は46箇所、第2・3学年では生徒作品数は112点、発想や構想を促すヒントなどの数や見通しをもって活動できるような工夫の箇所数は79箇所となっており、主体的な学習を促すよう工夫されている。</li> <li>・各題材の冒頭にある「目標（4観点）」の文頭にチェックを入れる欄とともに〔共通事項〕に関する「問いかけ」を設け、生徒自らが学習を振り返り、目標が達成できたかどうかを確認することができるようにしている。</li> <li>・題材ごとにヒントを示し、発想や構想の手がかりとなるようにしている。</li> <li>・相互に関連するページを→マークで示すことで、興味に応じて自主的に学習を進めることができるよう配慮されている。</li> </ul> <p>○ 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各冊は「はじめに」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」ごとに色で示している。</li> <li>・作品をつくる際の安全についての注意事項をマークと囲みで示している。</li> <li>・澤田真弓先生（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）と市原恭代先生（NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構理事：工学院大学准教授）の校閲を受けている。</li> </ul>

様式2

教科名	美術科	教科書名		番号
116 日 文		美術1 美術2・3上 美術2・3下	出会いと広がり 学びの深まり 美の追求	美術 728 美術 828 美術 829
取 り 扱 い 内 容	○ 絵や彫刻などについては、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。			
	第1学年～ 観察して表す活動、情景を表す活動、材料の特性を生かして表す活動、版の特性を生かして表す活動、表情やしぐさを捉えて表す活動を通して、対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、創造的に表現の構想を練り、創意工夫して表現する。			
	第2・3学年～ 視点を変えて表す活動、動きや空間を表す活動、材料の特性を生かして表す活動、言葉と絵で表す活動、感情を形や色で表す活動、墨の効果を生かして表す活動、自分を見つめて表す活動、空想の世界を表す活動、光の効果を生かして表す活動、問題意識を表す活動、ともにつくる活動を通して、対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、表したい主題がよりよく表現できるように表現の構想を練り、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現する。			
	○ デザインや工芸などについては、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。			
第1学年～ 構成・情報（文字、オノマトペ:擬声語、絵文字、マーク）・気持ちをデザインする活動、紙・粘土・木などの特性を生かしてつくる活動を通して、目的や機能を考え、美的感覚を働かせて構成を考えたり、他者の立場に立って伝えたい内容を考えたり、使用する者の気持ちや材料などの美しさなどを考えて表現の構想を練り、材料や用具の特性などを考えて表現する。				
第2・3学年～ 伝統工芸のよさを生かしてつくる活動、情報（ピクトグラム:視覚記号、イメージ〈ポスター、ブックカバー〉）・やさしさ:ユニバーサルデザイン・機能・パッケージ・室内装飾・環境・未来をデザインする活動、空間を演出する活動、木や革・金属・布の特性を生かしてつくる活動を通して、目的や機能を考え美的感覚を働かせて形や色彩などの組合せを簡潔にしたり統合化したり、伝えたい内容を伝えるために形や色彩などの効果を生かしたり、使用する者の気持ちや造形的な美しさなどを総合的に考えたりして表現の構想を練り、材料や用具、表現方法の特性などを考えて表現する。				
○ 鑑賞については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。				
第1学年～ 絵の中に入り込んで作者の意図を感じ取る活動、クリムトとオキーフ、一村の花の描き方や構図の意図を比較する活動、デザイナーの発想や手法から学ぶ活動、アジアの仮面や衣装の造形的な特徴を比べる活動を通して、作品などに対する見方や考え方を広げ、美術文化に対する関心を高め、造形的なよさや美しさなどを感じ取る。				
第2・3学年～ 「最後の晩餐」やカラヴァッチョ、フェルメールの作品のよさを感じ取る活動、日本美術とヨーロッパ美術が与え合った影響について話し合う活動、漫画表現の効果を話し合う学習、機能的なデザインの働きに気付く活動、写真の効果を生かした作品のよさに気付く活動、仏像の表情や動きの違いを味わう活動、ピカソの「ゲルニカ」制作の意図について話し合う活動、自然を生かした日本建築のよさを味わう活動、未来志向のデザインの提案に学ぶ活動を通して、造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、生活を豊かにする美術の働きについて理解し、美術文化の継承と創造への関心を高める。				
○ 【共通事項】については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。				
第1学年～ 観察して表す活動、材料や版の特性を生かして表す活動、デザインする活動、生活を潤すものをつくる活動、作者の意図を話し合う・違いを比較し合う・知識・理解を深める・造形的な特徴を話し合う・表現との関連を重視した鑑賞活動を取り上げ、形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえ、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。				
第2・3学年～ 空想の世界や自分を見つめて表す活動、空間や材料の特性を生かして表す活動、デザインする活動、生活を潤すものをつくる活動、印象や感じ取ったことを話し合う・造形的な特徴を話し合う・違いを比較し合う・知識・理解を深める・表現との関連を重視した鑑賞活動を取り上げ、形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえ、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。				

	<p>○ 知識・技能の習得、活用、探求への対応については、どのように取り扱われているか。</p> <p>第1学年～ 巻末に、「学習に役立つ資料」として、自然界や身の回りにある形や色、画材と技法、色光と色料、版画・焼き物の技法が取り上げられ、それぞれの題材ページの下に参考として示され、基礎・基本の習得と創造的な技能が発揮されるための配慮がされている。</p> <p>第2・3学年～ 巻末に、「学習に役立つ資料」として、まちを彩るパブリックアート、日本美術の展開と世界との交流、現代に受け継がれる浮世絵版画、水墨画の技法、粘土でつくる、木でつくる、金属でつくるが取り上げられ、それぞれの題材ページの下に参考として示され、基礎・基本の習得と創造的な技能が発揮されるための配慮がされている。</p>
内容の構成・配列・分量等	<p>○ 内容の構成・配列が、地域の実態や学年の発達の段階に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>・3年間を通じて、自己、生活、社会・自然・環境というステージで学習するよう設定され、発達段階を考慮して3冊分の構成にしている。</p> <p>第1学年～ 「出会いと広がり」をテーマに構成され、生徒が楽しく美術の活動に取り組める教材が系統的に配列されている。</p> <p>第2・3学年～ 「学びと深まり」(上)、「美の探求」(下)をテーマに構成され、生徒が主体的に美術の活動に取り組める教材が系統的に配列されている。</p> <p>・各冊は、「表現中心の題材」と「鑑賞中心の題材」に分け、バランスや配列を考えるとともに、相補に関連を図れるようになっている。</p> <p>・「表現中心の題材」の一部に、4ページ構成の題材を設け、表現の可能性が広がるようにしている。</p> <p>○ 内容の分量が、各領域や分野等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>第1学年～ 「絵や彫刻など」は14ページ、「デザインや工芸など」は14ページ、「鑑賞」は12ページ、資料が20ページであり、総ページ数は60ページで前回より25%増となっている。</p> <p>第2・3学年～ 「絵や彫刻など」は26ページ、「デザインや工芸など」は24ページ、「鑑賞」は14ページ、資料が36ページであり、総ページ数は116ページで、前回より20%増となっている。</p>
使用上の配慮等	<p>○ 生徒の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <p>・巻頭に、「出合って広げよう」「図画工作、そして…美術へ」として、図画工作での学びを生かし(第1学年)、「学びを深めよう」「表現の可能性を求めて」(上)、「美を探し求めて」「夢をかたちにするデザイン」(下)として、表現への可能性と創造と試行錯誤の楽しみに気付く内容が、巻末に、「あなたへ～中学校美術からの巣立ち～」として、美術の学習の目標や学びの意味を考える内容が取り上げられている(第2・3学年)。</p> <p>・北海道の素材等として、片岡球子の油絵「富士山」や北海道立近代美術館にある佐藤忠良の「ボタン」、上川町の山あいにかかった虹(第1学年)、安田侃の彫刻「意心帰」(東京ミッドタウン)、モエレ沼公園にあるイサム・ノグチの彫刻「テトラマウンド」、エミール・ガレの「鯉文(こいもん)花器」、アイヌ民族衣装「アットゥシ」、アイヌ工芸「二風谷イタ」(第2・3学年)を紹介している。</p> <p>・中央部には、6～8ページ分の両観音ページを生かした「教科書美術館」を設定し、テーマにふさわしい美術作品を取り上げ、生徒が共感を抱くことができるようにしている。</p> <p>・情報量の増加と鑑賞作品を大きく扱うために、A4ワイド版になっている。</p> <p>・和紙を使用することで触覚と視覚を働かせて、浮世絵の鑑賞を深められるようにしている(第2・3学年上)。</p> <p>○ 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。</p> <p>・第1学年では生徒作品数は97点、発想や構想を促すヒントなどの数や見通しをもって活動できるような工夫の箇所数は62箇所、第2・3学年では生徒作品数は125点、発想や構想を促すヒントなどの数や見通しをもって活動できるような工夫の箇所数は129箇所となっており、主体的な学習を促すよう工夫されている。</p> <p>・各題材の冒頭に「学びのねらい(4観点)」を設け、生徒が主体的かつ効果的に学習に取り組むことができるようにしている。</p> <p>・題材ごとに学習内容のポイントをマークと囲みで示し、表現や鑑賞活動、発想・構想の手がかりとなるようにしている。</p> <p>・相互に関連するページを参照マークで示すことで、興味に応じて自主的に学習を進めることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>・各冊は「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習に役立つ資料」ごとに色で示している。</p> <p>・作品をつくる上での安全に関する注意点をマークで示している。</p> <p>・大内 進先生(国立特別支援教育総合研究所客員研究員)の校閲を受けている。</p>

